

平城京・奈良時代関連年表

参考資料
『ポプラディア情報館 日本の歴史1』ポプラ社
『律令国家と万葉びと』小学館
『早わかり世界史』日本実業出版社
インターネットフリー百科事典ウィキペディア“8世紀”

天皇	文武	元明	元正	聖武	孝謙	淳仁	称徳	光仁	桓武	西暦	日本の出来事	西暦	世界の出来事																																																												
文武	大宝元	和銅元	靈龜三	養老七	天智二	天智勝宝四	天智宝字元	宝亀元	天応元	延暦三	<p>大宝律令の制定。</p> <p>(この頃の都は藤原京)</p> <p>日本初の流通貨幣「和同開珎」発行。</p> <p>平城京へ遷都。</p> <p>『古事記』の完成。</p> <p>『風土記』の編纂が始まる。</p> <p>遣唐使と共に、吉備真備、阿倍仲麻呂らが唐へ留学。</p> <p>『日本書紀』の完成。</p> <p>三世一身法の制定。</p> <p>聖武天皇が即位。</p> <p>渤海国の使節が来日、聖武天皇に拝謁。</p> <p>長屋王事件。</p> <p>光明皇后が施薬院を設置。</p> <p>吉備真備らが帰国。</p> <p>天然痘が大流行、多くの犠牲者が出る。</p> <p>藤原広嗣の乱。</p> <p>国分寺・国分尼寺の建立が始まる。</p> <p>聖徳太子の私財法の制定。大仏造立が始まる。</p> <p>聖武天皇が譲位、孝謙天皇が即位。(六人目の女性天皇)</p> <p>東大寺で大仏開眼供養会。</p> <p>唐の僧鑑真が来日。</p> <p>橘奈良麻呂の変。</p> <p>孝謙天皇が譲位、淳仁天皇が即位。</p> <p>この頃、『万葉集』がまとめられる。</p> <p>恵美押勝が反乱、敗死。淳仁天皇が淡路に配流、孝謙上皇が重祚して称徳天皇となる。</p> <p>称徳天皇に重用された僧道鏡が法王となる。</p> <p>宇佐八幡宮神託事件で、和氣清麻呂が道鏡の天皇即位に反対、大隅へ配流。</p> <p>称徳天皇崩御。光仁天皇が即位。道鏡は左遷、和氣清麻呂は朝廷に復帰。</p> <p>蝦夷の豪族、伊治皆麻呂が反乱、按察使の紀広純を殺害。蝦夷征討の戦いが続く。</p> <p>光仁天皇が譲位、桓武天皇が即位。</p> <p>長岡京に遷都するも、翌年、造営長官の藤原種継が暗殺される。</p> <p>平安京へ遷都。</p>	701	<p>唐の武則天(則天武后)が死去。唐の再興。</p> <p>イスラム帝国のウマイヤ朝が西ゴート王国を滅ぼし、イベリア半島へ進出。</p> <p>唐で玄宗皇帝が即位。唐の全盛期の始まり。</p> <p>満州へ朝鮮半島北部に渤海国が成立。</p> <p>東ローマ帝国が首都コンスタンティノポリスにて、ウマイヤ朝の攻撃を撃退。</p> <p>東ローマ帝国にて、キリスト教の聖像(イコン)崇拝禁止。以後、聖像破壊運動へ。</p> <p>トゥールIIポワティエ間の戦いで、フランク王国軍がウマイヤ朝軍を破る。</p> <p>この頃、唐の玄宗は楊貴妃を寵愛、国が乱れ始める。</p> <p>ウマイヤ朝を滅ぼして、イスラム帝国アッバース朝が成立。</p> <p>タラス河畔の戦いで、唐の遠征軍がアッバース朝軍に敗れる。(これを機に、製紙法が西方イスラム世界に伝わった。)</p> <p>唐で安史の乱が起こる。(763)</p> <p>イベリア半島で後ウマイヤ朝が独立、イスラム帝国の分裂。</p> <p>フランク王国にてカール一世が即位。(後のカール大帝)</p> <p>唐で両税法が施行される。</p> <p>アッバース朝でハールーン・アッラシードがカリフとなる。</p> <p>第二ニカイア公会議でキリスト教の聖像崇敬が認められる。</p> <p>この頃、インドネシアでポロブドゥール寺院の建設。</p>																																																												
西暦	701	705	711	712	713	718	721	726	729	732	735	737	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800

